

東海
道中
膝栗毛發端

全

東 京 圖 書 館

和書門
小説類
二六函
架
九一號
冊

20
3
3



藤栗毛發端序 明治十年交換
 鬼河原 關外莫道遠 五十一
 驛 皇別 山谷の詩
 子持 東海の道中
 定らぬと 國主 以衛
 子持宅と 藤栗毛の書



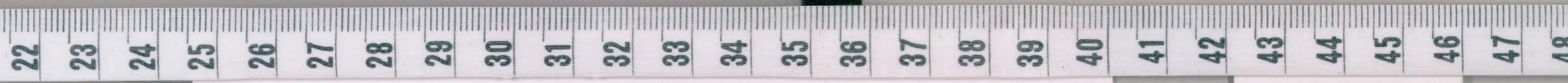
原の身のみ中冊に記し。おんま
 走の曳や〜。馬の身は凡も
 ひりさぬ。落向のどけと置と。相
 の〜おけして如斯

十時文化 十返舎一九志
 甲戌初春
 一鹿

累解

或人同弥治郎を請。喜多八は原何者ぞや。答曰何れも
 多し。弥治唯の親仁あり。喜多八は我も駿州に尻の
 産尻喰観音の地尻めて。生きたる因縁よりうて。旅
 役者。花水多羅四郎が篋子として。串賣とある。されど
 尻癖。こゝろ。其所に尻をうて。尻の仕廻り尻は帆を
 のけて。弥治は隨ひ出奔し。俱に戯気と居て。而巳
 此書西士が東都神田のハ丁堀に。店借し居り。馬
 中のあしを著し。終に旅行の發起とある。所以の馬
 鹿ら〜きま〜と。作者は。此麻酒の飲料。餘計の
 著述とある。

越後 奇話 氣の薬館 全二冊
 越後守田夢日町にあり。孫を創製と記せし
 奇話 狂歌八正刺 氣の薬館 全二冊 越後守田夢日町にあり。孫を創製と記せし
 奇話 狂歌八正刺 氣の薬館 全二冊 越後守田夢日町にあり。孫を創製と記せし





かかれ
まじらぬ
のしゆ人よ
まじらぬ
まじらぬ



式
赤
赤

此頃雪唐より御史通と類して
新吉撰史の作者画工の出所事跡を
記しつるに似しるはま心
寄して切るき撰史不通の書と謂べし
申が膝栗毛も八編ありて終るに而已
雪唐が書は八編各篇の中より古又と
さるるべし況は當年續五編ふまれ
其はつらとさるるは

道中膝栗毛發端

東都 十返舎一九編

武藏野の尾花がまを煮小かする白雲と渾くむじく
浦の心占を鳴らし津の夕暮を小あてて仲の所乃夕
景又とあさるる時のあけぬま。今八升の内小鮎を
汲む水道の水長あして土器造の白壁更は清き
香の切桶以俵破を傘の金所すや地を唯も通
さぬ大に戸の敷島化國の目より大道小金浪も時



此にありやう小おもひはゆでもひく種と。いざして出つけ
まのり。幾千の教限軍もたつき中子生國を
駿列府中。折面至流洛市を漸といふ。親乃代
と。至相應の商人。わして百二百の小判。何討でも
困らぬや。の身代ありが。安部川町の多酒。小をる。至
高上。後殺者。兼ふ。高屋。口。而。抱の鼻。之。助。と。つ。る
小。お。込。込。の。道。小。や。子。行。み。と。し。黄。金。の。釜。を。堀。い。ざ。せ。し
心。地。して。眠。び。就。事。の。あ。つ。け。と。を。り。し。て。ハ。身。代。小

中。で。途。才。も。形。も。完。と。堀。所。て。勢。及。なく。屍。乃
仕。舞。ハ。若。流。と。あ。る。屍。ハ。枕。け。て。府。中。の。所。を
介。落。ま。さ。る。し。て

借金之家。土の山。ほぐ。ある。い。へ。い。

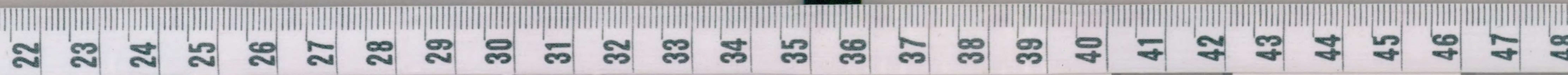
そこで。兵。迹。を。駿。河。の。り。ね。

新。足。久。保。の。釜。あ。る。と。い。は。し。し。所。て。江。戸。小。さ。こ。う。
神。田。の。八。ヶ。場。小。新。道。の。小。借。家。住。居。し。ま。と。し。の
影。あ。る。小。借。せ。江。戸。あ。の。奥。の。釜。味。は。豊。盛。塙。の。細



ある身もが。いんりくのお蛸こたとおん通とおとせしして
いよく跡あとめてきて後あとをいじしぬも。とんどひを
のいんりくごとく。せと編あむりも。ねでもあつて
添そぬぬやと申まゆるゆるおもひおめてめ思おもひの物ものと接あて
さふ。男おとこ小添こせむせむむおひおききららああききくくちちううねねて
あひあてておおぎぎららやや。けけううううのの胸むねがが。いいんんかかめめととああてて
不ふ便べんががいいてて下くだささるる。ままがが寝いてて冷ひやいいるるううと
るる四よととまませせむむははササくくももややくくくくカカももくくああめめ入いるるいいん

あつていんりく。終おつつぶぶののくくああららめめいいととああらら。ああらら。
胃いととああららののハハ女に女にああららでで二に世にのの二に世にのの。ままははままじじく
いいんんりりけけてて敷敷てて見見るるハハ女にととああままををああささごごままのの口くち上じやう。
そそのの見みててままんんままごごみみとと後あと海うみうううう日ひささくくそそのの因いん力りき
小添こををいいててははききてておおここししああららるるとといいつつああのの馬うま屋や
ととああままじじくくああららるるままごごみみとと又また姉あねああらら姉あねああらら。
満まんちちのの男おとこでももああららるる。ここののハハ女に女にああららるる。小添こををいいてて
おおののままごごみみとと色いろががああららるる。同どうががららああららるる。口くち上じやうにに

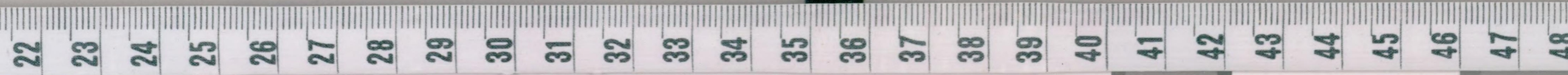


して一雨の入りしとある毎の男なるては海を
 へとす。まづは母が首をきついで。まゝ入持と
 仕らふ。まづは母が首をきついで。まゝ入持と
 中ませしは先方も法親類も一も傍軍ぞもへ
 兼てある。妹もとまきし中受るは吉と吹聴せし
 へん。世間傳へ給し中訳のちの仕合女の首ひさ
 受ること何の役もしてぬ。以上へそえとうち
 早きより外を別給し。昭安安倍川におおわて
 備負と皮せむとの返車。そまは成たもどく傳への
 才といふおもと扱扱せし。雨はかぬを中よりみだを
 先さきと斗まは主し人の由親めと以裁りしに居
 ちあぐり。私の宿をきとりいで討果さんとの敵へ給
 志す。中一不忠。母がはなかくして。夫と持しと志す
 まゝして。利金もふ。紫約せしと不存し。はいひきし
 いまど。戦か。礼もせらる。うちのおと。まふ。一分のまゝ
 あり。あふれ。たが。自今。双後。あ。人。を。恨。を。棄。り。て。由。奉。



公と大切に新らまはす。まはと妹、ちことまゝに後知子
ひの約束せし、男の外。他へ縁さばくまどさへは是
自入會所のいふとと教もな夜子思ふまじり地より
別傳する男は流せよとの言を難くか受てりて
そまよりのまよるまでを然しるふさうの男今女房と
持ある由入まどごとくと妹とわしはまはぬまよるまじり
まみれまともいふまよる侍が。生懸さげかかまよるま
サ、妹めと對面よるまよるまよるまよるまよるまよるま
まよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるま

その繩を引けて固えへひまよるまよるまよるまよるま
披ふし。一旦のせし。利金をかか入のまよるまよるま
秘にまよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるま
停めて。繩をかきまよるまよるまよるまよるまよるま
ハア。成程まよるまよるまよるまよるまよるまよるま
おめさるまよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるま
かろこと。切割まよるまよるまよるまよるまよるまよるま
切りて。報難卒抱まよるまよるまよるまよるまよるまよるま
まよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるま





22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48

ちんとのる。らんく。ト妻のこゝのあきまえん捲ああをさるんああを
あけがめあつあをりれあをいそくきして

あきまがてあひてのけいあをさるんああをあうれあをああを
あはまきあうてあを八まきあをさるんああをこめいああを
あをあを八まきあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

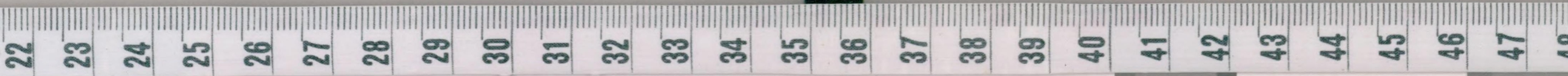
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを

あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを
あをあをさるんああをあをさるんああをあをさるんああを





此の如きことがあせまこある実をみる所にかまきんと

入まておぬこのご。ハア、お世せなく。トてんびの申う。世の事と

りるふがつが。ヤア、おまじや。婿やぐ。トてんびの申う。世の事と

くまで見る程でまてわさうまう。トてんびの申う。世の事と

ハア、コレや。ハの子とこの女とちうづねう。ハア、コレは。ハア、コレは。

ハさぬのさう。肉よ。おまんま。おまんま。おまんま。おまんま。

ら。おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。

おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。おとら。

親かえろ。まう。まう。まう。まう。まう。まう。まう。まう。

か。ひ。か。ひ。か。ひ。か。ひ。か。ひ。か。ひ。か。ひ。か。ひ。か。ひ。

て。あ。り。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。

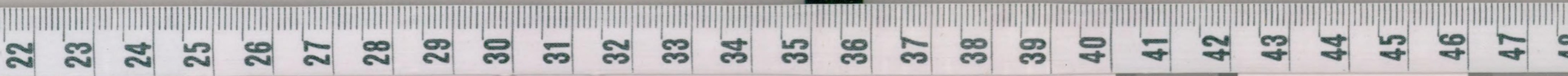
十。五。の。金。を。使。け。て。外。へ。行。け。る。と。の。お。は。い。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。

沖。も。お。あ。る。う。う。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

ら。ま。じ。ご。ら。ぬ。い。の。あ。あ。あ。の。お。あ。る。お。あ。る。お。あ。る。お。あ。る。

あ。り。ひ。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。

お。じ。い。ろ。ま。ま。と。ト。お。じ。い。ろ。ま。ま。と。ト。お。じ。い。ろ。ま。ま。と。ト。



志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

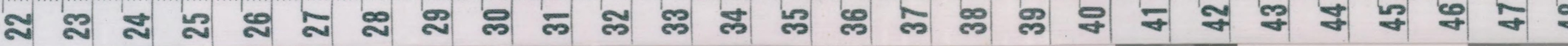
志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう

志ろり。其内が夏はでぬらう。又まらうちよ。トあいらう





22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48

120
43
53

道中膝栗毛 第八編 大尾

なほしやこのまゝをふとくうのりすうその早ハやどきき決りて
きこしきこのるふよりせうんごうとあひひもまはなをてあけける
かへまきれの独歌

新波江のうあへまき 藤う山

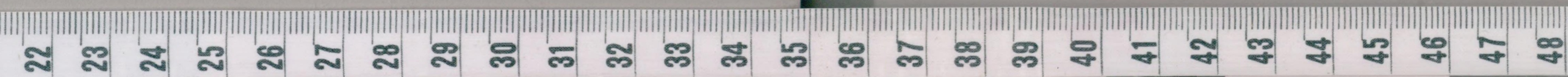
おもしろいことよき日とせし

120
43
53

国立国会図書館

タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用



国立国会図書館

タイトル『道中栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用